

(10) 令和4年度 磐田市立豊田南小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	評価(%)				自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
			子供	教師	平均	平均			
	自信を育む学校	よいと思ったり考えたりしたことを、自分から行動したり言葉などで表したりすることができたか。(90%)	90	90	96	92	A	<p>○ 学校教育目標具現に向けてすべての教育活動を関連付け、知・徳・体の重点目標とその手立てを「南小の一年」という構想図に表して視覚化し、それらの目標を、各学級において子供と共有した。今年度は、学び合い・関わり合い・鍛え合いの場を授業・特活・行事で意図的に設け、主体性を育む指導とその価値付けに努めた。自信をもって行動できたと自覚する子供が9割いるということは、指示や役割を与える指導になっていないかと、教職員自身が指導方法をその都度見直し、児童の創意工夫に任せる活動に移行するよう心掛けてきたことが大きな要因だと考える。</p> <p>※ 本校の子供は、素直で真面目であり、吸収も早い。今後は、授業を核とした日々の教育活動の中で、主体性の育成を象徴するキーワード「自分から」をより意識させ、学校ならではの豊かな経験を積み重ねていきたい。本校の子供のよさ(強み)を守りつつ、失敗を恐れず、仲間と共にくたくたく活動できるよう、教育課程のマネジメントと教師の指導力の向上に力を入れていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自信を育み、自主性や自発性を持たせることは大人社会でも難しい分野である。そのうえで9割の子供と保護者が達成できていると感じる一方、1割の子供と保護者は行動や言葉に結び付けられていないと評価している。 ・「自信」とその先の「行動」あるいは「言葉」を切り離して考えた場合、その1割の子供たちが「自信」を持つことさえできていなかったとすれば、これは大きな損失であり、本校の重要な課題である。叱ったり、圧力をかけたり、特権を奪うなどの方法ではなく、あくまで認めて、受け止めて、褒めて育てる風土であるよう強く望む。 ・子供たちが自発的に行動することが出来ていることは、教職員の皆さんの指導が適切に行われていることと思います。様々な場面において自ら進んで行動することが出来る人になれることを期待します。 ・児童、先生の評価が高いところに安堵である。授業も自らの意見を発表する内容が多く、子供たちの成長につながっていると感じられる。 ・休みみの学級遊びも、何をどうやるか子供たちが意見を出し合っていると聞いている。 ・「自分から」を今後もより発展させてほしいと願うと同時に大人も「自分から」を実践しなくてはと反省である。 ・自分の意見を他者に伝えたり他者の意見を聞くことで、その内容を理解したり視野を広げることができ、児童自身も自信を表現することがだんだん上手になってくるものと思います。 ・発表することが苦手と感じている児童もいると思いますが、全体の場での発表が難しいのであれば、ペアや班ごとで発表する機会を増やしてあげることで本人の自信となり、力をつけることができるものと考えます。 ・長期間のコロナによる制約の中での生活によって、「自分から行動する」ことにも影響を与えているのではないかと。 ・自信を持って行動できたと自覚する子供が9割もいる学校は凄いいことだと思います。 ・南小の1年でどう学んでどういう姿になるのか？共有できたらうて間違えても良い、失敗も成功もない、自分が「良い」と思ったことを言動に移せるクラス・学校の雰囲気や授業づくりの成果だと思います。 ・何より、それを教師が96%も認めていること自体、教師が自信を持っているということになり、それが波及しているのでは？
学び合い(知)	学び合いを通し、学ぶ楽しさを味わえる子の育成	授業の内容がよく分かるか。(90%)	94	88	92	91	A	<p>○ 「学び合いを通し、学ぶ楽しさを味わえる子の育成」を日々の授業で目指してきた。今年度は、子供が試行錯誤しながら本気になって取り組む課題や発問を工夫したり、学びの過程を大切に単元構想をしたりと、目指す子供の育成を意識して授業改善を行った。これらは、校内研修と関連付けている。特に、校内研修の窓口教科であり、すべての学級で担任が指導する「国語」については、全教職員で研究協議を重ねてきた。今回の結果から、少しずつではあるが、考えをもって学び合う授業スタイルが浸透しつつあると言える。</p> <p>※ 本校では、子供が「自分の学びに満足する」姿を、授業において「学ぶ楽しさを味わった」が故の表われであると定義付けている。「自分の学びに満足しているか」の項目は、今現在他の項目に比べ若干低い値であり、今後、より具体的な授業改善を行う必要を感じる。次年度に向けて、教師が授業を核として子供を育てるという確固たる信念をもって教育活動に専念できるような仕組みづくりを思案している。児童と教師が、共に目指す授業像をイメージでき、学級全体で学びを楽しめるような授業づくりに努めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね良好。 ・授業内容がよく分かるという項目において、子供と保護者と割合に少なからず差があるのが気になりました。どの点において自分の学びに満足しきれていないのかを知りたいと思います。これからの学習において、国語は非常に大事だと思っています。文章等の読解力を磨く指導に期待します。 ・学び(授業)に関しては、科目による差について深堀りができると尚良いのではないかと。 ・他の学年は分からないが、国語について伸び悩む児童がいるような感じをもっている。 ・基礎的学力については、先生方の工夫や児童の理解度に合わせ進度を調整いただいていると感じるが、高学年になると、より中学年の理解が必要だと感じる為、復習として春休みの課題について工夫できると良いのではないかと感じる。 ・日々の工夫や改善を積み重ねることで教育の質も高まるものと考えます。子供の育成には学校のみならず、家庭、地域も連携して進め、子供達が毎日楽しい学校生活が送れるよう取り組んでください。 ・出来ないとききかえることが多い。4年生になり、急に算数が難しくなると理解する前にあきらめる。学校では、分かっている風にしてはいるのか、家での脱力感がすごい。お友だちと考えながら、活動し、発表している姿は、どの子もとても成長を感じる。 ・これからの世の中、変化の時代。益々、柔軟で応用の利く、考える力が重要だと思うので、継続・発展を期待しています。 ・「試行錯誤をしながら本気で取り組む」というのが、生きていく中でとても大事なことになるが、それを普段の授業で、息を吸うようにできていくのであれば、学びは楽しいだろう。(「学び合い」になっていけば必ずとそうなるか) ・他者を認め、自分を認め、満足している、という姿は幸せそう。
		授業で自分の考えをもつことができたか。(85%)	91	-	96	94	A		
		自分のクラスは学び合おうとする雰囲気か。(80%)	93	-	96	95	A		

		自分の学びに満足しているか。(80%)	88	-	-	88	A	
認め合い(徳)	認め合いを通し、自分から関わる子の育成	明るい挨拶や会釈を進んでしているか。(85%)	91	80	96	89	B	<p>○ 子供・教職員共に、学校内では子供が挨拶・会釈を心掛けていたとの認識だが、家庭や地域に帰ると十分ではないことが分かる。子供が挨拶・会釈の価値や必要性を十分理解して実践できるよう、本当の意味での習慣化をめざす必要がある。今年度は、予定通りすべての参観会を開催した。そのため、学級の様子を保護者に直接見ていただくことができた。日々の子供の表れも、本読みカードやホームページでタイムリーに伝えており、子供たちが落ち着いて学習する様子が保護者の信頼につながっていると考える。また、学校が楽しいという子供は多く、子供の「居場所づくり」が、学級経営の中で意図的に行われていると言える。</p> <p>※「認め合いを通し、自分から関わる子の育成」を「重点目標」に据えていった。日々の指導において、挨拶・会釈が相手との関わり合いを良好にする手段であることを価値付けたり、子供の特性や良さを認めたりする指導を今後も引き続き行っていく。併せて、授業を核としながらも、縦割り活動等の特別活動も再開して関わり合う機会を保障し、子供自らが互いに良さを認め合うことを推奨していくことで、自己有用感や自己肯定感を高めていく。</p>
		自分のクラスは、生活や学習のルールを守り、みんなで協力するクラスか。(90%)	93	96	96	95	A	
		学校は楽しいか。(90%)	92	95	96	94	A	
		友達のよさを見つけ、友達に伝えていくか。(85%)	84	-	96	90	A	
								<p>・「居場所づくり」の観点は非常に重要だと考える。 ・「学校は楽しいか」の問いに対する評価の数値が、保護者よりも教師よりも子供たち自らの点が低いという現在の状態はSOSであり、あってはならない。 ・大人の責任として、これはあくまでも満点を目指すべき項目であり、家庭や地域で何があろうとも、すべての子供たちが「学校は楽しい」と回答できるよう取り組まなくてはならない。 ・イジメを含む子供同士の問題だけでなく、学校内の風土や教職員の姿勢や態度、加えて出入りする保護者や関係者に原因がある場合も含め、子供が楽しくないと感じる原因はどんな些細なものでも、また個々の価値観や信念に起因するものであったとしても、徹底して改善する必要がある。 ・登校時の見守り活動の中でも、進んであいさつする子は少なく感じます。また、こちらからあいさつしても下を向いたままとか返事をしない子供が多いとも、はずかしいのか？大きな声でとは言いませんが、返事ができる子になってほしいです。 ・挨拶については、南小はややおとなしい印象を持っている。青城小の方が知らない大人にも挨拶しているように感じる。保護者も近所、地域の方にきちんと挨拶ができないといけないと思っている。 ・校内の様子はHPで更新が早くとてもありがたいと思っている。子供の居場所として、学校が楽しいと思える場として今後も期待している。 ・認め合いは、相手の立場だったらどう思うかという自分の立場からではない見方ができるようになると、より自己成長につながるのではないかと。 ・挨拶は社会に出てからも基本となります。家庭でも地域でも状況に応じた挨拶ができるよう家庭とも連携して引き続き指導をお願いしたい。 児童全員が目標達成に向けて取り組むことは大変良いことで、自分たちで決めることで、ルールを守ったり挨拶をしようとする児童が増えてくると思う。 児童一人一人の居場所となる学校・学級づくりに今後も取り組んでください。 ・参観や外で会う時は、笑顔であいさつしてくれるのに、旗振り、朝のあいさつ運動の時は元気を感じない。 ・挨拶はコミュニケーションの第一歩であると同時に、防犯にも役立つものである。学校、地域を問わずできるようにしてほしい。 ・友達の良さを言葉で伝えて、更にネガティブな点を「○○を△△したら(出来たら)もっと良いと思う」と伝えることをトレーニングしたら、大きくなって使えるスキルが身に付くかもしれません。 ・挨拶や会釈ができていると、子供自身も思っていて、教師もそれ以上に認めているというのは素晴らしいことだと思います。 ・保護者が感じる部分は、家や地域ではそうでもない、ということだと思うが、家では甘えもあるだろうし、地域で出会った大人に自分から挨拶するのは大人でも勇気のいることで、不審者情報もあるため、知らない大人には警戒するのが普通ではないか。むしろ、大人が温かい声を掛け、それを無視しないで元気に返す、でも合格だと思う。たまに小学生から「こんにちちは〜」と元気に先にあいさつされると本当に元気をもらえるので、それができる子は更にすごいということの良いのでは？常に良い子でいたら疲れてしまうと思う。 ・学校が楽しく、クラスの雰囲気が良いと認めている子ども、保護者、先生がそろっているのもとても良い学校なのだと思う。まさしく、安心できる「居場所」になっているのですね。その土台があるから、いろいろなチャレンジできるんだと思います。 (別件ですが、私のNPO活動に南小の子ども数人いますが、前のめり、やる気に溢れています。受付等お願いしてもさっと手伝ってくれます。昨年参加した子が自信をつけ、それを宣伝していたこと、それを聞いて来たとき、信頼関係があることも感じます。)</p>

鍛え合い(体)	きたえ合いを通し、たくましい子の育成	毎朝、朝ごはんをしっかり食べているか。(100%)	97	95	100	97	B	<p>○ 今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を最も大きく受けたのが、「鍛え合い」の領域である。接触が危惧される運動や遊びが大きく制限されたことで、「外で元気に体を動かした」の値が若干低かったのは、子供の正直な反応だと言える。しかし、これまでの経験から、コロナ禍の中でも、日々の活動にめあてをもって取り組むことを価値付け、きめ細かな指導を継続してきた。そのことが、結果に反映したのだと考える。</p> <p>※ 今後は感染症対策を講じながら、「自分に合った」目標を設定させ、より子供一人一人の成長に重点を置いた健康・安全面での指導を心掛けていく。同時に、主体性の育成を軸に、学校という集団ならではの「競い合い」と「励まし合い」に価値を置いていきたい。また、早起きや朝食の摂取など、基本的な生活習慣を確実に習慣化できるよう、家庭への啓発や保護者との連携をしていく。</p>
		天気の良い日は、外で元気に体を動かしているか。(90%)	81	78	79	79	B	
		目標をもって体育の授業や体育行事に取り組んでいるか。(90%)	94	85	92	90	A	
		友達と競い合ったり、励まし合ったりして心と体を強くしているか。(80%)	92	-	83	88	A	
一人一人を大事にする教育		学校に相談できる先生や友達がいるか。(90%)	95	91	96	94	A	<p>○ 本校は生徒指導と特別支援教育の両面で、一人一人を大切にすることを実践している。学級に居場所をつくることや子供の良さを価値付けることを特に意識し、丁寧な初期対応と組織対応に努めてきた。特別支援教育においては、年度初めに子供の特性を全教職員で共通理解し、多様な表れや困り感に寄り添うことを心掛けてきた。これらの教職員の丁寧な取組が、子供・保護者に伝わったと言える。</p> <p>※ 今後も子供理解に努めつつ、SCやSSWなどの専門家や子ども若者相談センター等の外部機関と連携して、一人一人を大切にすることを積み上げていく。</p>
		先生は自分のことを理解し、大切にしてくれるか。(90%)	97	96	100	98	A	
							<p>・コロナ禍にありながら、多くの工夫で良い取り組みがなされてきたと感じる。</p> <p>・長期化するコロナ感染の影響が外で元気に遊ぶ機会が少なくなると感じます。国による対応の緩和が行われる来年度には、状況が少しずつ変わってくるかとも思います。友達、クラスメイトと元気に運動場で遊ぶ姿を早く見たいと思います。</p> <p>・朝食に関しては、休日の対応に差が出ているのではないかと。</p> <p>・外で元気に…コロナの影響もあるが、携帯ゲーム(スイッチ)のこともあるのではないかと。フィルタリング同様、使用時間の歯止めも要検討。</p> <p>・体育…マラソン大会など、各自が目標をもって取り組めた生徒が多かったのではないかと。</p> <p>・心と体を強く…生徒と先生との間で差がややあるが、子供たちはたくましく生活しているのだと理解するところである。</p> <p>・コロナ禍の中、3密を避ける感染対策を長期間に渡って継続されてきたことから、生活環境に大きな影響を与え、地域とのかかわりも少なくなりましたが、今後の動向を見ながら地域との連携も促進していただきたい。</p> <p>・学校生活の中で友達とのトラブルもあろうかと思いますが、他者と積極的に関わることで、気持ちを伝えあい解決する力を身に付けることも学んでほしい。</p> <p>・今年度、放課後の限られた場所で児童とかかわりました。状況に合わせて、声量は押さえながらも自身の意見や願いをときには粘り強く大人に伝えたり、周囲の友達に助言したりするなど積極的な面が見られました。コロナ禍ではあるものの、子どもたちが学校生活を楽しみながら成長していると何人かの大人が話しました。</p> <p>・宿題や持参のドリルなど机上の学習がすむと、進んでカードを利用したポプラっ子運動(?)に励んだり、読書をしたりしていました。友達と競い合ったり励まし合ったりして、心と体を強くしている姿を見せてもらっています。</p> <p>・コロナの影響もだいぶ落ちつき、子ども達が元気に体を動かせる時間が徐々に戻りつつあり、お友達と休み時間に一緒に遊べることをとても喜んでいる。</p> <p>・外で元気に遊ぶ子供をあまり見掛けなくなった。ゲームも一つの要因ではないかと。</p> <p>・基本的な生活習慣は、子どものころからつけておける環境が非常に大事だと思うので、保護者の実情もあると思うが家庭が重要だと思う。</p> <p>・朝ごはんを食べてない子がいて、本人は食べていると答えられけれど、保護者は食べていると思っていない誤差も気になります。</p> <p>・目標をもって体育授業や行事に取り組んでいるのに、保護者には認められていない誤差があるのも残念。</p> <p>・心と体を強くしているか?も子どもには競い合い励ましあっているのだろう。</p> <p>・そもそもこの評価の仕方、書くにあたり、子どもは面倒で全部に「できた」と書いてしまう面もあるのか?単に自己評価が高いのか?先生や保護者によく思われたくて「できた」と書いているのか?どの学校でも気になるところです。</p>	
							<p>・1割近い保護者が相談できる先生や友達がいなくて感じている。</p> <p>・一方で教師側は子供たちを「理解し、大切にしている」と満点回答をしている。仕組みとして機能しているも、前出の「学校は楽しいか」の問いと同様に齟齬が生きている。自身の立場上、すでに一部の教職員の指導姿勢が方針に対し複数の相談が寄せられ、かつ改善や解決がなされていない実情を見ると、キャリアに関係なく問題点を指摘し合える環境にないことが伺われる。大きな課題として、運営競技委員会全体の課題と捉えたい。</p> <p>・先生達の日頃の教育指導が良い結果になっていると感じました。</p> <p>・校内での友達、先生との関係が良好であると同える。</p> <p>・今後もより丁寧な対応を期待する。内気な子や外国籍児童なども学校に居場所があること、己の価値、自己肯定の向上にサポートをお願いする。</p> <p>・子供達は先生を見ている。先生が明るく元気ならば、子供達も元気で笑顔になります。寄り添うことに心がけてきたきめ細かい取り組み結果が、良好な成果として現れたものと思います。</p> <p>・子供の貧困、ヤングケアラー、引きこもりなど子供から直接相談することが難しいケースもあり、学校側で注視・発見に努めていただきたい。</p> <p>・不登校が多い時代。一人一人を大事にする教育は大切だと思っています。</p> <p>・この項目も非常に高く、安心していられる学校、信頼されている学校、先生ということがよくわかります。幸せな子どもたちですね。</p> <p>・ユニセフの幸福度で日本は精神的幸福度がワースト2位だったのが気になっていましたが、この学校の子どもたちはそんなことないということが分かります。あとは、残りの5%、3%の子を拾い上げられるよう、専門家含め協力して100%になるように…</p>	

学府 共通	しなやかなたくましさ（レジリエンス）をもった子の育成（学府）	目標（めあて）をもち、よりよくなろうと、あきらめずに取り組んだか。（90%）	93	89	96	93	A	<p>○ 井通・青城学府では、学府の子供たちの課題である「失敗を恐れ、打たれ弱い」部分を改善するために、「レジリエンス（しなやかなたくましさ）」の育成を目指してきた。3校の教職員で3回の合同研修会を重ね、レジリエンスの育成についての理解を深めて指導に反映させるよう心掛けた。また、PTA学府合同保健委員会でこの内容を扱い、便りを通じて保護者に発信した。子供たちに自信をもたせようという学府共通のめあてが、共有された結果と言える。</p> <p>※ レジリエンスをもった子の育成は、不透明な時代を生きる子供たちに必要な力でもある。今後も、家庭と学府の3校で連携して取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての子供たちが、自己肯定感を高い次元で維持できるよう、学校だけでなく、家庭や地域を充分な働きを進めなければならない。 ・自分を大切に思いつつ、回りにも気配りが出来るように少しずつなっていると感じます。 ・子供たちが自信をもって生活できるようになるには、引き続き継続的な取り組みが必要不可欠である。 ・失敗の先にある成功体験を通じ、たくましく成長して欲しいと願うところである。 ・一方、保護者も共に我が子、近所の子、ポブラっ子連に積極的な関わりを持つべきである。大人との接点を増やし、子供たちの成長につなげていきたい。 ・保護者へのアプローチはPTAとしてももっとできることもあるのではと考える。運営委でももっと取り上げて良いと思う。 ・レジリエンスとは、逆境に打ち勝つたくましさ。逆境に柔軟に対応するしなやかさのことですが、学校生活には学級活動・学校行事等を通じてレジリエンスを培う環境があります。育成するための良好な環境を整えてください。 ・先日、子ども会の豆まき会を終えて帰ってくる子、数人を見かけました。かけっこという様子でしたが途中からスキップに変わりました。子に袋を持ち、楽しそうな様子によかったと思いました。安心な状況下で育つことが子どものレジリエンスを高めると聞いています。乳幼児期からの子たちに、地域の一人としてできることを、ささやかですが行っていきたくと思います。 ・学府の課題に真摯に向き合い、解消するために行ってきたことが成果として表れていて素晴らしいと思います。先生方がその姿を見せているのではないのでしょうか？ ・この3項目は大人でも難しいことだと思います。 ・自分を大切にできることが何より大事だと思うので、その土台を大人たちが作ってくれている、認めてくれたり聞いてくれたり、一緒に楽しんでくれたり、ということが伝わっているのでしょう。
		周りの人や出来事をしなやかに受け止めることができたか。（90%）	92	89	92	91	A		
		自分のことを大切にしていたか。（90%）	93	97	96	95	A		
地域ととも にある学校	地域と一体になって子供を育む	本校が目指そうとしている子供の姿や教育内容が分かっているか。（90%）	-	92	-	92	A	<p>○ 参観会での授業公開や学校便りや本読みカード、ホームページ等の連絡手段により、子供の成長や学校の取組を学校教育目標に関連付けて発信した。また、授業や行事には多くのポブラっこサポーターに携わってもらい、子供の様子を間近で見守っていただいた。登下校時には見守りボランティアが毎日子供の安全を見守ってくれている。このような取組により、本校の様子が保護者・地域に伝わったと考える。</p> <p>※ 今後も保護者・地域住民との信頼関係を継続していくよう、保護者の声や地域の思いを真摯に受け止め、教育活動に反映する。また、学府教育とコミュニティスクールを基盤にし、協働の取組を進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね良好。 ・地域活動がまだまだコロナ前のようににはなっていないですが、少しずつ活動も増えているので、地域とのつながりを強く持てるようになってほしいです。 ・学校のHPは、見るのも楽しく子供たちも楽しみにしているようであり保護者としても様子がよく分かり助かっている。見守りボランティアの方々にも大変感謝である。今後はポブラっこサポーターの他、運動会などの行事でも地域の力を借りて運営できると良いかと思う。 ・学校・家庭・地域が連携することでお互いの信頼関係が築かれ、地域ぐるみで子供たちを見守る良好な環境が保たれていることで、児童の育成にも大きく貢献している。 ・ホームページを見ることによって、小学生のいない家庭でも、今時の学校や子どもの様子が分かることから地域の人たちにホームページを見ることの楽しさを伝えていきます。 ・見守りボランティアの方が毎日登下校に付き添ってくれるのは、とてもありがたい。授業参観、ホームページ等で学校の様子が見れてよかった。 ・各地域の子供会活動が充実した内容になるように、地域でバックアップしていく必要がある。 ・何点かコメントはさせて頂きましたが、総じて良質な教育をして頂いていると思っております。ありがとうございます。 ・保護者の理解、協力・連携ができていく証拠ではないか。 ・ボランティア志願者も多いこの学校は、保護者に余裕があり、豊かな土柄なのかなと実感しています。 ・地域の方も見守りや受け入れなど、非常に協力的で、地域で子供を育てる「おせっかいのまち いどおり」というスローガンそのものだと思います。そのスローガンを掲げている効果もあるだろう。見守りボランティアも含め、地域での取りまとめをしてくださる村上さんの功績が大きいと思う。交流センター便りも学校を非常に大事に大きく扱っていることも感謝したい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

令和4年度は新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら、学校教育目標具現のために、できる限りの教育活動を行った。学校運営協議会に参加した学校関係者からは、『『自分から』の合言葉のもと着実な教育活動が行われており、知・徳・体どの分野においても、子供・保護者・教職員とも高い満足度を示しており、成果が見て取れる』と評価していただいた。また、参観した授業の様子や地域での子供の様子（登下校時の挨拶等）を見ても、高い学校評価結果の値と見合っているという感想をいただいた。保護者・地域の代表の方からのこれらの評価は、大変励みになる。今後さらに、本校の子供が主体性やたくましさを伸ばし、自己肯定感を高めていくために、いくつかの御意見をいただいた。「知の分野で「国語」を重点に授業改善を行っていることは大変よい。国語力はすべての教科を学ぶ基礎となる。」「保護者や地域での発信が効果的に行われている。保護者はもっと学校に協力すべきなので、PTAへの依頼は遠慮なく行ってほしい。」「これらの意見は私たちが教育活動を信じ、支えようとして下さっている表れである。一方、各項目において「満足していない」と答えた1割の子供・保護者の存在は大きい。すべての教職員が結果を真摯に受け止め、より丁寧な指導・対応に励む必要性がある。

本校の教育活動は、これまでも保護者・地域に大いに支えられてきた。今後も、子供や保護者、地域の期待に沿えるよう、令和5年度の学校経営目標「つながりを大事にし、自信を育む学校【思いや期待に応える】」を掲げ、教育課程を全教職員で誠実に遂行していきたい。